

LINK&M

坂下 英樹氏

コロナ禍でエンゲージメントの関心高まる 人的資本の情報開示が義務化にらむ動きも

リンクアンドモチベーション（LINK&M、2170）は社員のモチベーションにフォーカスした経営コンサルティングを展開している。コロナ禍でリモートワークが急速に広がった昨年は、組織状態の見える化ニーズが高まり、同社の注力商品である組織改善クラウド「モチベーションクラウド」シリーズの需要が増加した。2021年12月期の取り組みについて、LINK&Mの坂下英樹代表取締役社長に写真に聞いた。



「前期を振り返って。コンサルティングやモチベ

った結果、19年度を約15%下回った。一方、外国語指導講師(A

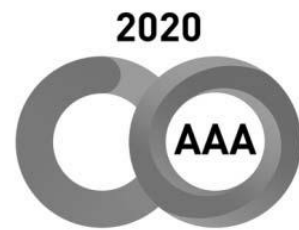
ーションクラウドシリ
ーズを展開
する『組織
開発』セグ
メントの売
上高は、コ
ロナ禍で集
合型研修等
が延期とな

LT)派遣を中心とする『マツチング』セグメントは、休校分の授業消化を夏休みに実施する自治体が多く、短期間に派遣依頼が増した。パソコンスクールのAVIDAなどスクール系の事業を行う『個人開発』セグメントは、第一弾の緊急事態宣言(昨年4、5月)による打撃を最も受けた。現在はオンライン形式に切り替えて対応している」

「コロナ禍でもモチベーションクラウドの大手導入が進んでいる」
「リモートワークの浸透で従業員と顔を合わせる機会が減ったことが背景にある。モチベーションクラウドは従業員のモチベーションやエンゲージメント(企業と従業員の相互理解・相

思相愛度合い)を可視化・数値化し、組織でどのような問題が起きているかをいち早く察知して課題解決に導くサービス。特にリモートワーク下で組織の状態が把握できなくなった大手企業からの引き合いが高まっている。また、米国では昨今、市場企業に人的資本の情報開示が義務付けられるようになった。こうした動きは、いずれ日本にも広がるとみられ、大手企業を中心に人材諸表やエンゲージメントデータの開示に対する関心が高まっていることも導入が進んでいる要因に挙げられる」

「近年は様々な組織診断ツールがある中で、モチベーションクラウドが選ばれている理由は、ポイントが『診断』と『変革』。病院で例えるならば、検査をして終わりではなく、そこに変革という対策を立てて改善までサポートすることが大きな強みとなっている。『診断』では組織の課題を顕在化させる「発見」と、業界内で比較して自社の現状を把握する「相対」の要素がある。創業から蓄積してきた7350社183万人のデータベースをもとに組織の課題を業界で相対的に見た場合、どの程度優先順位が高いのかわかる。また、『変革』では組織状態に応じて打つべき施策を「選定」することが重要。さらに、その施策で



ENGAGEMENT RATING

by Link and Motivation Group

「エンゲージメント・レーティングロゴ」

「引き続き影響力のあるリーダーングカンパニーへ
「エンゲージメントスコアを基に格付けランクを行うエンゲージメント・レーティングのロゴを作成した。近年はエンゲージメントと労働生産性の相関性に対する理解・共感が広がっており、一方、こうした取り組み成果を積極的に開示する企業はまだ少ない。エンゲージメント・レーティングが労働市場や資本市場で企業を選別する際の重要指標の一つとして浸透する世の中をつくっていきたい」

「今期注力していく取り組みをうかがいたい。」

「調整」を行う点も特徴だ」

「状況によって違う手立てを講じている」

「きちんと効果が出ているかを検証し、状況によって違う手立てを講じている」

「きちんと効果が出ているかを検証し、状況によって違う手立てを講じている」

「きちんと効果が出ているかを検証し、状況によって違う手立てを講じている」

「きちんと効果が出ているかを検証し、状況によって違う手立てを講じている」